

# 実証した事項と、得られた成果 生乳分野 -

## 流通段階

### (1) システムの動作確認と業務仕様の実行確認

- ・現場のニーズに応じて、経路番号や運転者番号など任意の情報設定により、集乳車と送乳車の特定と記録ができた。
- ・安全管理の確認が担保された搾乳牛とバルククーラーの紐付けが実現した。
- ・集乳車・送乳車の特定と合わせて、搾乳牛からバルククーラー、集乳車、クーラーステーションの貯乳タンク、送乳車乳業メーカーまでの一連のロット情報を一元的かつ簡易に管理できた。

### (2) 事業者にとっての効果

- ・何らかの問題が発生した場合の影響範囲を迅速に把握し、回収等の処置を容易にできる。
- ・「合乳」(統合)、「分割」の内容を容易に確認できる。
- ・出荷時のバルククーラーに紐付く搾乳牛の特定に加えて、個々の搾乳牛の動物用医薬品の投与記録や衛生管理情報など生産履歴情報を確認できる。

## 生産・出荷段階

### (1) システムの動作確認と業務仕様の実行確認

- ・耳標個体識別番号等で識別した乳牛に対して、動物用医薬品の使用禁止期間・休薬期間や出荷停止期間、検査結果などの安全管理内容の判定・確認ができた。
- ・実際に出荷する搾乳牛の確定処理によるバルククーラーと搾乳牛の紐付けができた。
- ・生乳生産安全管理に必要な乳牛個体情報の管理ができた。
- ・携帯電話による情報の検索・記録機能により、専従者や作業ヘルパーなど複数作業員による操作や情報共有ができた。

### (2) 事業者にとっての効果

- ・生乳の搾乳時の判定・確認により安全・確実な出荷処理が実現できる。
- ・生乳生産安全管理の信頼性を担保できる。
- ・携帯電話の利用により記録・確認作業の効率化と即時処理が可能になる。
- ・作業員だけでなく集出荷団体と生産者間の情報共有が可能になる。
- ・集出荷団体による生産指導、計画生産などに活用することができる。

生産現場での簡易な利用

システム投資の抑制

組織的かつ全国的な普及